回し姿で発表した小泉くん

第17回新津市中学校わたしの主張大会

私たちはこう思う

8月2日、県少年の主張大会の新津市代表選考会が行われ、市内の各中学校から選出された生徒が身近な出来事や体験を通して感じたことをテーマに熱弁を振るいました。今号では、優秀賞に選ばれた三名の発表文をご紹介します。

相撲を通して学んだこと

小泉　恵太
（小合中3年）

あれは、今から三年前の春、市内相撲大会の時でした。本格的な練習もせずに選手として出場した僕でしたが、運良く順調に勝ち進み、決勝で、今のライバルである土田君に敗れた直後のことでした。相撲協会の人に、「惜しかったなぁ。でも君は素質があるぞ。一度、道場へ練習に来てみなさい。」と誘われたのです。僕は迷わず、「はい!!」と返事をしてしまいました。

入門した初日は、「お願いします。」のあいさつに始まりました。それからみっちり基礎練習のぶっかりげいこが続きます。今まではただ、「相撲はかっこいいなぁ。」ぐらいにしか見ていなかったのですが、入門してからの道場での練習は大違いでした。ものすごくきつく、苦しかったです。ハァハァ息は切れるし、足はパンパンにはれるし、回しがくい込んで痛いのなんの。「もうだめだ。相撲なんかやめよう。」と何度思ったか分かりません。でも、やめずに今日までこれたのはなぜだろう？いや、ますます相撲にのめり込んでいく今の自分は、何がそうさせたのだろうか？

それは何といっても、相撲が好きで好きでたまらなかったからです。いや、そればかりではありません。あの時負けた悔しさと、土田君への挑戦心があったからだと思います。「こんちくしょう。この次は、絶対倒してやるぞ!!」そう思いながら、今日までけいこを続けているのです。

それ以来、僕の猛特訓である、自主トレが始まりました。中学になっての三年間、今もずっと続いています。毎日ランニング三キロ。しこ百回。その後、父を相手にぶつかりげいこの繰り返し。そのせいか、先日、道場の先生に「最近、足腰がきっつぇなったなぁ。伸びたなぁ。」と、ほめられたりしています。

おかげで去年は、中体連の県大会では四位。北信越大会まで勝ち進むことができました。また、相撲連盟の全国大会県予選では二位になったのですが、あと一歩のところで「国技館」へ行くことができませんでした。

そして今年、僕の勝負の夏がやってきました。七月の地区大会、県大会、八月の北信越大会、そして全国大会へと僕の挑戦が続く予定ではありましたが、残念ながら勝利の女神から見離されてしまったのです。不運にも、県大会前の練習中に、左手薬指の筋を切り、手術をするはめになりました。そのため、県大会はドクターストップがかかってしまったのです。それでも夢を捨てきれず、ケガを隠して出場し、片手で戦ったのですが、ベスト16止まりでした。僕の夏は、無残な結果に終わってしまいました。

でも僕は、相撲を通して多くのことを学びました。相撲道の精神でもある「心」「技」「体」の大切さです。中でも次の二つは僕の指針となっています。一つは「礼儀作法」です。礼に始まり礼に終わる精神は、今の生活に大変役立っています。気の小さい僕ですが、朝のあいさつも元気よく、人前で話す時も大きな声を出すようになりました。

二つ目は、「自分に勝つ」ということです。僕のあこがれの大関「千代大海関」のおっしゃった言葉。「父ありて我が強さあり。母ありて我が優しさあり。」この言葉のように強い意志を貫き通し、優しい心を持ち続けて、強い人間になろうと思います。本当に相撲を続けて良かったと、感謝しています。

「人は、一つのものに打ち込んでいる時、宝石にも負けない『輝き』を発する。」と本で読んだことがあります。僕もその「輝き」を失わないように、目の前に迫り来る高くて厚い壁に向かって、一つ一つ挑戦していこうと思っています。

僕の郷土の力士、大寿山関と交わした言葉。

国境を越えた友情

木村　早希
（第五中3年）

私の友達のひとりに、ラフィカという名前の女の子がいます。名前から分かるように、彼女は日本人ではありません。ラフィカは今年の三月、日本への留学生として、インドネシアからこの新潟県新津市へやってきました。私はラフィカとの出会いから、とても大切なことを学んだのです。

ある日、私が塾へ行くと、「先生の家に、ホームステイに来ている子がいるんだって」と、友達が教えてくれました。私は英語を勉強するうちに、英語を話す地域へのホームステイや留学にあこがれを持つようになっていました。そしてあこがれだけではなく、文化を理解したいという興味もわいてきていたので、先生や友達にくわしく聞きました。

すると、いくつかのことが分かりました。まず、ラフィカという名前のこと、肌の色はいわゆる黒人といわれる人に近いこと、イスラム教徒であること、毎日お祈りをすることなどです。それを聞いて、私は肌の黒い色に差別心を抱き、私たちにはないお祈りの習慣に偏見を持ちました。この時点で、私は彼女への興味や、心の中にあった期待がほとんどなくなっていたのです。

そして、いよいよラフィカと会うことになりました。あまり気乗りはしなかったのですが、この出会いは私の期待を呼び戻してくれました。ラフィカは数人の生徒と話をしていましたが、私に気付くと、笑顔で手を振って、

「ハーイ、カモン」

と、話しかけてくれました。

「ホワット　ユア　ネーム？」

「マイ　ネーム　イズ　サキ　キムラ」

「サキ？　ナイス　トゥー　ミート　ユー」

これが初めてのラフィカとの会話です。ほんの数分話しただけなのですが、「なんだ、私たちと変わらないじゃん」と思ったのです。

次の塾の日、またラフィカのところへ行きました。そうすると、ラフィカは私のサキという名前を覚えてくれていたのです。その時の感動は今でも忘れられません。それから塾の日は必ずラフィカのところへ行きました。ラフィカはインドネシアの友達のことを話してくれたり、ラフィカのお母さんからの手紙を見せてくれたりして、私たちはたくさん話しました。こうしてラフィカと過ごしていくうちに、外見での差別や、宗教に対する偏見なんてばからしいと思えたのです。

確かに風習の違いはあるようです。ラフィカは、実生活でも宗教の教えを忠実に守っています。例えば、ニュース番組でイスラム教徒とキリスト教徒が争いをしている映像が出ると、「やれやれ」とイスラム教徒を応援し、逆にキリスト教徒をけなすそうです。また、何か悪いことをしてしまって、自分を罰する意味で何日か断食をしているラフィカに会いました。日が出ているうちは何も食べず、何も飲みません。このようなことは、宗教を熱心に信仰し、誇りを持っていなければ絶対できないと思います。そのような強い信仰心を持たない私にとっては驚きでした。

ラフィカと出会って約一か月後の四月の末、私が修学旅行へ行ったとき、友達と二人でおみやげを買ってきました。いろいろ悩んだ末、風鈴を選びました。日本にしかないものだと考えたからです。ラフィカは、案の定「なにこれ？」という顔をしました。私たちは、身振り手振りで飾る場所や、風が音を鳴らすことなどを教えました。そして、そのあと、私とラフィカと友達で風鈴の短冊の部分に書いたある言葉を忘れることができません。

"We are friends forever"

"私達はずっと友だちだよ"です。三人で考え抜いて、この言葉を書きました。こうして私は、生涯忘れられないであろう、心からの友達ができたと確信しました。

たった数回、ラフィカと会話しただけなのに、私はこんなことを思うようになりました。「国籍が違うから、肌の色が違うから、宗教が違うから、一人ひとりの考えや顔が違うから、だから誰かに教わり、教えてあげられるのではないか、だから学び合えるのではないか」と。

私は、ラフィカに、友情には国籍も何もないことを教わりました。いつも明るく話しかけてくれるラフィカに、私が教えられることは何もないかも知れません。でも、たくさんしゃべって、ラフィカの心のどこかにある寂しさを少しでも埋められたら、と思います。

週二回の塾の日、休み時間には、私はつたない英語で、ラフィカは勉強したての日本語で、たくさん話します。これから先、お互いどんなつらいことを相談し合っても、解決して、乗りこえていける気がします。だって、ラフィカと私たちの間には、国境を越えた、かけがえのない友情があるのだから。

僕は確かに、机に向かった勉強は得意じゃありません。しかし、裸一貫体を張った勉強は得意です。

僕の夢は、花籠部屋へ入門し、強くなって、大関千代大海と張り合うことです。

お買物、ご用命は市内で

秋の増改築フェア
9月11日㊏～19日㊐
水まわり増改築専門店 水と住まいのふれ愛 システムショップ かねみや
浴室　キッチン　INAX　トイレ　洗面所
本町2丁目1－11 ☎24－1630

お買物、ご用命は市内で

靴の イザワ
靴なら何でも揃うイザワ
※歩く楽しさをお届けします－※
二葉館前本店☎22－0625
長崎屋店☎24－5177
★駐車場あります

デリカ家だより
♥臭パチ対策
海の藻から クロスタニン含糖体食品。
身体の臭・サビを消す ドナリエラ食品。
♥シミ・色黒対策
毎日できるホームエステが 最高！
ミネラル豊富な泥パック洗顔・ローションで美白・潤いを カツウラ化粧品
♥抜毛・薄毛対策
植物油原料のシャンプーは髪や頭皮にやさしく・すこやかにしてくれます
長崎屋1F デリカ家 ☎(24)7936